

付着生物ラーバ情報

サンカクフジツボの付着ピークは過ぎました

1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ、キヌマトイガイ、オベリア類 (クラゲの仲間、通称クサ)

ラーバ、クラゲは見られていません (図2)。

(2) ムラサキイガイ

ラーバは10月2日に奥内沖で0.8個体/m³、野辺地沖で2.3個体/m³見、10月8日に川内沖で0.8個体/m³見られました (図3)。

(3) サンカクフジツボ

付着直前のラーバが奥内沖で10月2日に4.2個体/m³、10月7日に0.8個体/m³、10月8日に川内沖で0.8個体/m³見られました (図4)。

(4) アミクサ (海藻、通称クサ)

小枝は10月2日に奥内沖で1.7個/m³見られました。

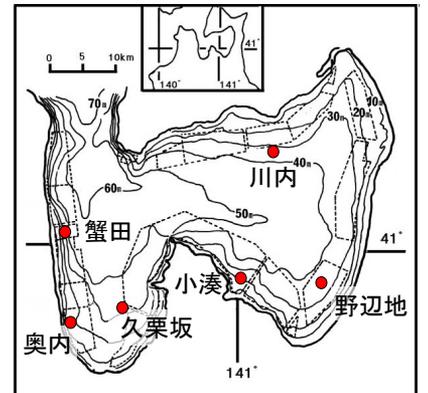


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	単位: 個体/m ³						
		ユウレイボヤ	ザラボヤ	キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	サンカクフジツボ	オベリア類 クラゲ	アミクサ 小枝
奥内沖	R2.10.2	0.0	0.8	0.0	0.8	4.2	0.0	1.7
	R2.10.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0
久栗坂沖	R2.10.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
野辺地沖	R2.10.2	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0
川内沖	R2.10.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

ユウレイボヤは水温20℃以下で産卵します。現在、陸奥湾内の中層の水温は20℃前後となっているので、今後ラーバの出現と付着が始まるものと思われます。未分散のパールネットにユウレイボヤが多く付着している地区では、親ボヤを減らすために分散作業を早めに進めてください。また、ユウレイボヤは**深いところで多く付着する**ことが分かっているので、施設を沈めすぎないようにしましょう。

ムラサキイガイラーバは4~7月まで出現していたので、稚貝および耳吊り貝に小さい個体が多く見られる可能性があります。これまでの調査で**秋から冬生れのラーバの付着はほとんどない**ことが分かっています。

サンカクフジツボの付着直前のラーバが少し見られますが、付着のピークは過ぎました。殻長1mm程度の小さい個体は**稚貝分散時に選別機を用いることで大量に落ちる**ことが分かっているので、分散作業を早めに進めましょう。

オベリア類、キヌマトイガイ、アミクサの付着は年明けになると思われます。

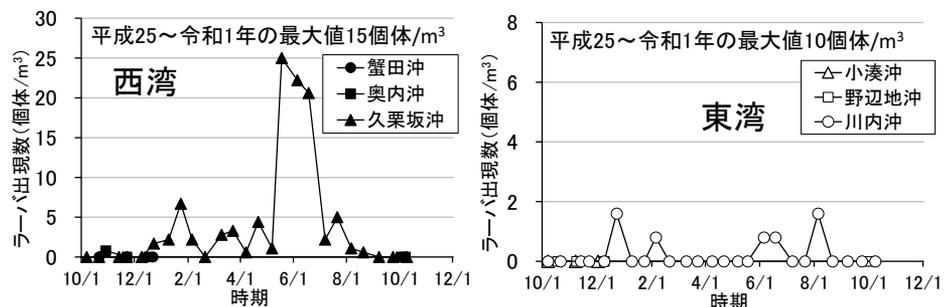


図2 ヲレイボヤ ラーバ 出現数の推移 (令和元年10月~令和2年10月)

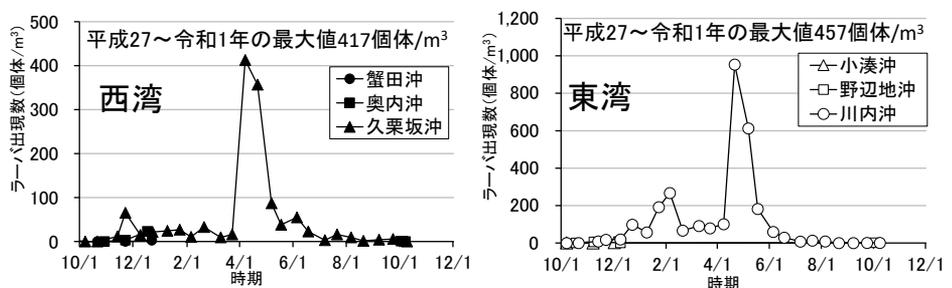


図3 ヲラサキイガイ ラーバ 出現数の推移 (令和元年10月~令和2年10月)

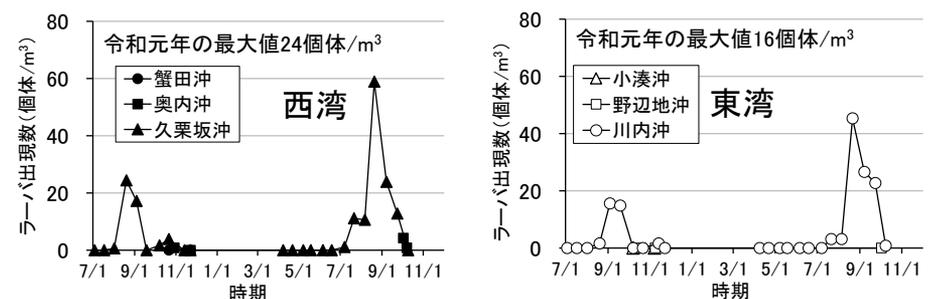


図4 サカクフジツボ ラーバ 出現数の推移 (令和元年7月~令和2年10月)

